

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

民博を修学旅行の事前学習に活用する：
世界史Aの授業や「総合的な学習の時間」を通して

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 柴田, 元 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001646

民博を修学旅行の事前学習に活用する —世界史Aの授業や「総合的な学習の時間」を通して—

柴田 元
大阪府立豊島高等学校

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 民博を修学旅行の事前学習に活用する | ント |
| 2 民博・展示利用の学習プログラム開発・
教案 | 多民族社会ハワイの現状と歴史（“光”
と“影”） |
| 3 世界史A 修学旅行事前学習用教材プリ | —先住ハワイ人に焦点を当てて— |

*キーワード：修学旅行，世界史A，オセアニア展示，ハワイ，先住民運動，多民族社会

1 民博を修学旅行の事前学習に活用する

民博を学校の学習活動に活用できないだろうか。筆者が企画展（「弁当からミックスプレートへ」展01年4月～8月）のボランティアスタッフとして民博に関わりを持つようになって以来、考え続けてきたことである。01年10月、府教育センター主催・第2回「地理・歴史」研修で、『博物館の授業での活用を考える—博物館や地域の教材を生かした授業を考察する—』と題する講義（講師：大阪教育大学・岩城卓二先生）を受け、問題関心はますます高まっていった。

そうした折、本校の普通科総合選択制1期生である2年生の修学旅行の行き先がハワイに決まった。民博のオセアニア展示が01年3月に模様替えされ、あらたに「先住民の文化運動」のコーナーが加わった。ハワイ、ニュージーランド、オーストラリアの三地域の先住民運動を、政治・経済・芸術を焦点にして展示している。ハワイコーナーは、先住民の主権回復、文化復興運動を主題とするものであり、ハワイ人の経済活動を支援する実在の生活協同組合の店『ハレ・クーアイ』が再現されていた。民博にはポリネシアの島々をテーマとしたビデオテークもある。修学旅行の事前学習の一環として民博を利用できないだろうか、と考えるようになった。

私は、2年生の世界史A（2単位）を担当することになった。2年生の授業は、19世紀後半の第2次産業革命、世界を分割する帝国主義あたりから入る。欧米列強による太平洋諸島の侵略・併合の過程も学習する。もう一人の担当者と相談し、世界史Aの時間にハワイ修学旅行の事前授業を実施することに決めた。修学旅行が実施される2学期に、先住ハワイ人のたどった苦難の歴史と主権回復運動に焦点をあてた内容の授業を行うことに決めた。教材プリントは私が作成することになった。

事前学習としての民博訪問は、「総合的な学習の時間」の夏期休暇課題のいちプログラムとして、希望した生徒のみ引率した。その結果、オセアニア展示を鑑賞した生徒は、結局少人数にとどまってしまった。年度当初より明確なプランをたてなかったことや生徒への呼びかけが不十分であったことなど、担当者（筆者）の反省すべき点は多い。なお、土曜日は高校生は無料で入館できる。

校外学習委員会の調べによると、平成16年（2004）年度には、府立高校168校のうち35校が海外修学旅行を実施した。行き先は、タイ12校、アメリカ10校（グアム6校、ハワイ3校、サンフランシスコ1校）、韓国6校、オーストラリア3校、シンガポール・マレーシア2校、中国2校となっている。平成15年（2003）年度は、いわゆる鳥インフルエンザやSARSの影響などで、海外修学旅行実施校は12校にとどまった（内訳は、タイ3校、韓国3校、米・グアム3校、オーストラリア2校、シンガポール1校）。同年度の国内修学旅行の行き先は、沖縄43校、北海道30校（スキー修学旅行11校、冬季以外実施校19校）などとなっている。

民博は、オセアニア展示に限らず、東南アジア、東アジア、モンゴルなどの中央・北アジア展示さらには沖縄やアイヌをはじめとする北方民族の展示もたいへん充実しており、修学旅行の事前学習の一環として活用する価値は大いにあると考える。修学旅行担当者、事前授業担当者、総合的な学習の時間担当者の先生方に、まず民博へ足を運んでいただきたい。

学校が博物館をどのように活用するか、について実施校の担当者間で情報や意見の交換ができるようになればと考えている。

2 民博・展示利用の学習プログラム開発・教案

1. 単元名 (活動名) 多民族社会ハワイの歴史 —ハワイ先住民を中心に—	
2. 対 象：大阪府立豊島高等学校2年生 授業者：教科担当者	3. 展示および資料との関連
4. 教科領域との関連性： ①世界史A (帝国書院：明解世界史A・最新版を使用) の授業として、『第3部現代の世界と日本，1章現代世界のめばえ，2世界を分割する帝国主義』の箇所と関連させながら実施する。 ②「総合的な学習の時間」と世界史Aの授業とのリンクを考える。	①オセアニア展示 (展示全般，とりわけ「ハレ・クーアイ」とその関連展示) ②ビデオテーク 1416「チェチェメニ号の航海 サタワル島～沖縄」(14分) 1417「マイクロネシア サタワル島の生活」 1418「マイクロネシア サタワル島のカーヌー作り」(14分) 1296「マイクロネシア サタワル島の食生活」 ③季刊・民族学97 2001年夏 『特集 ハワイ 多民族社会の光と影』
5. 実施時期：いつでも可	6. 総時数：3時間 (ビデオ1，授業2時間)
7. 単元 (活動) 目標： ①ハワイ修学旅行の事前授業として，“多民族社会”ハワイの現状と歴史について学習させる。なかでも欧米人來島以後のハワイ先住民 (以下ハワイ人) の苦難と抵抗の歴史を理解させるとともに，ハワイ人の主権回復・文化再生の動きに共感を持たせる。 ②世界史Aの授業内容 (19世紀末のアメリカ合衆国によるハワイ併合は欧米列強による新しい膨張主義＝世界分割の一環としての出来事であり，20世紀のアメリカによる世界支配の始まりであったこと) との関連に注意させる。 ③民博のオセアニア展示から，ハワイ諸島の属するポリネシアをはじめ太平洋に住む人々が作り上げた自然調和で創造的な生活文化に関心を持たせる。ハワイ先住民の文化から学ぶべきことは何か，について考えさせる。 ④ハワイと日本との歴史的な関係に関心を持たせるとともに，東西文化の中継点としてのハワイ，太平洋の“キー・ストーン”としてのハワイが果たすべき役割についても考えさせたい。	8. キーワード ・ポリネシア文化圏 ・欧米列強による世界分割 ・砂糖きびプランテーション ・ハワイ王朝転覆 ・多民族社会 ・ハワイ人の主権回復，文化復興運動

9. 単元について（教材観・単元設定の理由・民博活用の視点など）：
- ①ハワイは、太平洋の先住民の生活文化や島々の移動・交流の歴史、豊かな神話、西欧列強による探検・侵略の歴史、東西文化交流の中継点としての歴史、移民の歴史、太平洋戦争の歴史、豊かな自然等々、多様な“教材”となる可能性を秘めている。
- 今回は割愛したが、世界史Aの授業で、「世界の一体化と人口移動」の箇所に関連させて「ハワイの移民の歴史」をテーマに授業を行うことも可能である。→参考文献については15. 備考参照
- ②「夢の楽園ハワイ」イメージが“作られたもの”であること、「多民族社会の優等生」イメージが多分に“虚構性”をもつことを気付かせるような授業にしたい。また、ハワイ人の文化復興の運動には、「タロイモ文化の再生運動」に象徴されるような現在の地球環境破壊へのアンチ・テーゼが含まれていることにも関心を持たせたい。
- ③世界史A、Bの教科書とも、「太平洋地域」に関する記述は驚くほど少ない。そして希少な記述の内容は、「(侵略を)される側」としてのみ捉えられている傾向がある。太平洋諸地域の人々の自然に適合した創造的な文化を紹介する民博のオセアニア展示は、教科書記述を補うものであり、「歴史と文化創造の主体としてのオセアニアの人々」という視点を提供してくれる。
- ④「総合的な学習の時間（本校ではチャレンジ・タイムとよぶ）」の夏季休業課題の一環として、希望生徒を民博へ引率し、展示・ビデオテークを鑑賞させるとともにワークシートを完成させた。

10. 展開計画・展開記録

次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
8月	「総合的な学習の時間」の夏季休業課題の一環として、希望生徒を民博へ引率。オセアニア展示とビデオテークを鑑賞させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・展示物の解説は必要最小限におさえる。生徒の見方、感じ方を尊重する。 ・学年の修学旅行担当者や「総合学習」の担当者と話し合い、連携を図る。
10月	ワークシート（授業者と青柳千子氏作成分〈資料添付〉の2種類）を完成させる。 「総合的な学習の時間」にビデオ鑑賞（『NHK世界謎解きヒストリー—「秘密の楽園ハワイ—」』）をさせる。 ◆生徒の感想；ビデオの内容で印象に残っていること → 11月の事前授業で、導入として質問した。 ・ワイキキ浜は昔は湿地でありタロイモを栽培していたこと。	

次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
<p>11月 第1, 2週</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地に砂を入れて埋め立て、リゾート海浜を作ったこと。 ・ワイキキにできた一流ホテルでは蚊が異常発生したこと。 ・アロハシャツのルーツは、移民としてハワイに渡った日本人の和服（着物）であること。 ・カラカウア王が日本に来て、一時行方不明になったこと。皇室間の結婚を直接天皇に申し込んだこと。 <p>世界史A（必修）の2時間を用い、全クラス（7クラス）に授業担当者2名で修学旅行の事前授業『多民族社会ハワイの現状と歴史（光と影）—先住ハワイ人に焦点を当てて—』を実施する。</p> <p>⇒ 授業の感想（修学旅行後に行ったアンケートで答えさせた）は14.に記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教材プリント（B4）4枚。導入として、上記ビデオで印象に残っていることを書かせる。 ②季刊民族学97掲載の「ハワイの人口構成」のグラフを転載し、多民族社会ハワイに関する質問事項に答えさせる。 ③年表形式の歴史解説と合わせ、多民族社会が歴史的に作られてきたこと、ハワイ人の人口激減の模様、現在のハワイ人の多くは他民族との混血であること等が読み取れる。 ④文中の重要な用語や人名を授業者が選んで（ ）にし、生徒に考えさせ、手を挙げて答えさせたりする。 ⑤写真集やカタログ、実物等を可能な限り用意し、生徒に見せる。 ⑥ハワイのトップ・ミュージシャンのCDを聞かせてもよい。 <p>ex) <u>H A P A</u>の「<u>プライド</u>」（『In The Name Of Love』）に収録）⇒教材プリントで解説。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者が複数の場合、綿密に打ち合わせを行う。 ・教材プリントを生徒とともに読んでいくが、作業をやらせたり、適宜質問を行ったりして生徒の集中をそがせないように工夫する。 ・ハワイの歴史については、年表の棒読みにならないように注意する。授業者が重要事項を取捨選択し、強弱をつけて解説する。 ・聞かせるタイミングを図る。CDを聞かせた意味について解説する。

次・時	主な学習活動と子ども（学習者）の意識	○留意点
第4週	<p><u>KEALI'I REICHEL</u>の「<u>KA NOHONA PIRI KAI</u>」（『SCENT OF THE ISLANDS, SCENT OF MEMORIES』に収録）⇒ B E G I Nの「涙そうそう」のメロディを巧みに使った作品。同じ太平洋に浮かび、ともに苦難の歴史を背負う沖縄のメロディにレイチェルが共感して作った作品。</p> <p>15日～20日、2年生ハワイ修学旅行へ。</p> <p>世界史Aの時間に、ハワイ修学旅行を振り返っての感想等を書かせる。</p> <p>→14. 学びの軌跡に感想を抜粋</p>	
<p>11. 評価計画：</p> <p>（民博見学に参加した生徒に対して）</p> <p>①真剣に展示物を鑑賞していたか。ビデオテープをまじめに鑑賞していたか。（態度）</p> <p>②ワークシートにまじめに取り組んでいたか。完成した内容はどうか。（態度、記述）</p> <p>（事前授業・修学旅行後の感想）</p> <p>③まじめに授業に取り組んでいたか。グラフや写真の読み取りを真剣にしていたか。（態度・記述）④まじめに感想を書いていたか。感想の内容。（態度・記述）</p> <p>⑤定期考査（2学期末考査）で、ハワイの歴史に関する問題に的確に解答していたか。（記述）</p>		
<p>12. 苦勞した点・改善点：</p> <p>①より多くの生徒に民博展示を鑑賞させたかったが、授業担当者の計画と読みが甘く、参加者は少人数にとどまってしまった。事前学習について年度当初からしっかり計画を立てること、生徒へのアピールの策を練り直すこと等、反省すべき点は多い。</p> <p>②民博で使用させたワークシートの形式・内容を改良する余地がある。</p> <p>③事前授業の教材プリントの内容を精選し、わかりやすいものにする必要がある。</p> <p>④10. 展開計画・展開記録に記載したCDは、授業までに入手することができず結局使用しなかった。人気グループでもあり、演奏者や曲の由来などの話は生徒に聞かせる価値のあるものと考える。</p>		
<p>13. 授業作りのための参考資料：（添付・世界史A事前授業用教材プリントの参考文献）</p> <p>・国立民族学博物館監修『季刊 民族学』97号，財団法人千里文化財団，2001年</p> <p>・山中速人『ハワイ』岩波書店，1993年</p>		

- ・山中速人『イメージの〈楽園〉—観光ハワイの文化史』筑摩書房, 1993年
- ・山中速人『ヨーロッパから見た太平洋』山川出版社, 2004年
- ・中嶋弓子『ハワイ・さまよえる楽園』東京書籍, 1993年
- ・山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社, 2000年
- ・近藤純夫『ハワイ・ブッカー知られざる火の島を歩く』平凡社, 2001年
- ・後藤 明『南島の神話』中央公論新社, 2002年
- ・増田義郎『太平洋—開かれた海の歴史』集英社, 2004年
- ・増田義郎訳『クック太平洋探検(1)~(6)』岩波書店, 2004~5年
- ・池澤夏樹『ハワイ紀行【完全版】』新潮社, 2000年
- ・『地球の歩き方 04~05』ダイヤモンド・ブック社, 2004年
- ・ビデオ『ETV特集「ハワイ, さまよえる楽園第一, 二回」』NHKテレビ, 1993年
- ・ビデオ『世界謎解きヒストリー—秘密の楽園ハワイ—』NHKテレビ, 2004年

14. 学びの軌跡:

〈事前授業の内容で印象に残ったこと〉

*ハワイ人が長い歴史のなかで、いろいろ苦勞してきたことに驚いた。*フラダンスが白人の宣教師によって禁じられたこと。白人がサトウキビプランテーションの経営者になったりしてハワイの土地を支配していったこと。*カメハメハ大王の像のモデルが本人ではないということに興味を持った。*日本に来たカラカウア王や、『アロハオエ』を作曲したりリウオカラニ女王にたいへん興味を持った。*昔から日本との関係がたいへん深いことに興味を持った。*「ハワイ人のハワイ」という言葉が印象に残っている。*現代の地球環境問題への関心から、自然や社会との調和を優先し、村単位で自給自足の生活をしていたハワイ人の伝統的生活が見直されていることに興味をもった。*ハワイの州旗にユニオンジャックのデザインがあることに興味を持った。*現在、ハワイの人口の22%が日系人であることに驚いた。日系人の移民の歴史を勉強してみたいと思った。

〈ハワイ修学旅行の感想(印象に残ったこと)抜粋〉

*とても時間がゆったり、のんびりしていた。*海、ねむの木、ダイヤモンドヘッド、大きな虹、見たこともない鳥など、自然がすごく大きくきれいだった。人が温かく自然が豊かなところが日本と違うところかなと思った。*日本語を話せる人が多いことに驚いた。*食べ物の味が日本とまったく違い、濃いか薄いか辛いかぐらいしかなかった。ご飯もパサパサだったし、苦みもおいも違うコーヒーを飲むのにも苦勞した。しかし果物はとても美味しく日本にはないものだった。*ハワイは華やかで楽しいイメージしかなかったが、パールハーバーの海に浮かんでいた軍艦を見てここで戦争があったんだと思い、少し悲しくなった。*(真珠湾攻撃のことで)日本人のことを良くは考えてくれないと思っていたが、ハワイの人がたいへん親切にしてくれて感動した。*ハワイに行って心が広がったように感じる。特にカメハメハ高校との交流が最も印象深いが、この貴重な経験を将来に生かしていきたい。*交流したカメハメハ高校の生徒たちがすごくフレンドリーで感動し

た。もっと英語が話せたらよかったと思った。*授業中、生徒が日本よりも積極的に結構うさかったが、授業には集中していた。学年に関係なくみんな仲良くしていたことが印象に残った。*ハワイ語の授業の時には、教室に入る時に「呪文みたいな言葉」を唱えなければならないようだった。*カメハメハ高校の食堂はバイキング形式になっていたが、生徒たちの食べる量の多さにびっくりした。*日本文化センターを訪問して、日米戦争の時には、日系移民が米兵として日本軍と戦ったことを知ったが、彼らの心境はとても複雑だったろうと思った。いまハワイで日本の特撮もののキカイダーが流行っているが、歴史上も現在も交流が続いていることを実感した。ハワイが日本人にとってただのリゾート地ではなくて、「友好の地」になればいけないと思った。*今回ハワイで言葉がわからなくてもジェスチャーで意思が通じることがわかった。日本で外国の人に話しかけられてもう戸惑うことはないと思う。今度は友達同士と行ってハワイの人ともしっかりコミュニケーションをはかりたいと思った。*いろんな地域に住んでいる人々の文化や考え方の違いをもっと勉強して、日本にいる外国の人たちにもっと気をつけてあげられるようになりたいと思った。*ビショップ博物館で、日本の着物・西洋のドレス・朝鮮のチマチョゴリなどの服が展示してあり、それらの服を着ている人たちの写真を見たとき、この地には昔からいろんな人たちが生きていたんだと思った。博物館にもいろんな民族の人が来ていたので特にそう思った。

15. 備考：

- (1) 修学旅行後に生徒に書いてもらった感想から、授業者は大きな感動をもらった。生徒の持つみずみずしい感性と鋭い観察眼、異文化を理解しようとする誠実で寛容な態度、自分や日本社会を振り返る真摯な態度等々である。感想文を読み、事前学習が却って「先入観」を持たせてしまうような結果になってはならないとも考えた。たいへん難しいことだが、「こうあらねば（考えねば）ならぬ」式に凝り固まった事前学習に陥る愚は避けなければならないと思う。
- (2) 筆者は、今回のハワイ修学旅行に付き添うことができなかった。もし、付き添って行っていれば、ハワイでの生徒の動向もつかむことができ、この報告もまたひと味違ったものになっていたかも知れないと思う。
- (3) 民博展示（「オセアニア展示」に限らず）には、教材として活用できる多くの“宝”が埋まっている。“見る目”を養っていかねばならないと思った。
- (4) 今回の事前学習では詳しく触れることができなかった「日系移民」の授業実践については、森茂岳雄・中山京子「日米の博物館との連携をいかしたハワイ日系移民に関する単元開発と実践—グローバル教育と多文化教育の結合可能性—」（『国立民族学博物館調査報告書』26, 2002年, 123～139頁）が参考になる。
- (5) 「太平洋のなかのハワイ」「ポリネシア文化圏としてのハワイ」をテーマにした授業も可能である。民博では、常設オセアニア展示のほか、05年5月まで、『ポリネシア文化の誕生と成熟』のテーマでラピタ土器などの新着資料展示が行われた。

3 世界史A 修学旅行事前学習用教材プリント

多民族社会ハワイの現状と歴史（“光”と“影”）

— 先住ハワイ人に焦点を当てて —

先日「総合学習」の時間に、NHKテレビ『世界謎解きヒストリー「秘密の楽園ハワイ」』のビデオを鑑賞しましたね。ビデオの内容、覚えてますか？ハワイにまつわるさまざまな歴史やエピソードが出てきました。さて、覚えている事柄や印象深かったエピソードを下に書いてみてください。

- (1)
- (2)
- (3)

ハワイの歴史を垣間見ることにより、「楽園“リゾートハワイ”」は作られたものであり、「さまざまな民族が仲良く暮らす平和の楽園ハワイ」のイメージは表層に過ぎないことがわかりましたね。サトウキビ畑で働く農業労働者として渡航した日系移民とその子孫の話をはじめ、ハワイと日本が歴史的にいかにつながりが深いかについても理解できたのではないかと思います。






きょうの世界史Aの授業では、18世紀後半キャプテン・クックが来島して以後のハワイの歴史を、先住ハワイ人（以下ハワイ人と表現）に焦点を当てて学習したいと思います。ハワイには、西暦300〜750年ぐらいに人が渡ってきて住みついたことがわかっています。当たり前のことですが、クック来島以前にも「ポリネシア文化圏」に属するハワイ人の生活や歴史がありました。のちに述べるハワイ人の文化復興運動でいう「文化」とは、基本的にはこのポリネシア文化のことを指します。

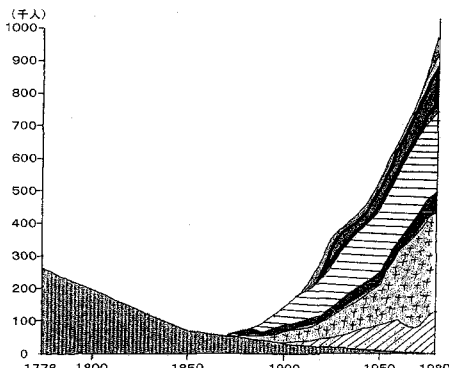
《多民族社会であるハワイ》

まず下のハワイの人口構成のグラフを見て下さい。右の表は参考程度に見て下さい。「多民族社会ハワイ」が歴史的に形成されてきたことがわかります。では、どのような民族がどのような割合でハワイに住んでいるのでしょうか。（表中の「コレア人」とは、韓国人・朝鮮人のことを指します。）

【作業】

1990年の統計によると、ハワイ州の総人口は約110万人で、さまざまな民族が共存している。（注：2000年の統計では、約121万人となっている）

- ①人口比率の最も多いのは  で表されている（白人）で、全人口の34%を占める。
- ②次に多いのは  で表されている（日系人）で、22%を占める。
- ③  で表されているのは、フィリピン系で、15%を占める。
- ④  と  で表される（ハワイ人）は12%で、約14万人である。
- ⑤続いて、中国系、韓国・朝鮮系、アフリカン・アメリカン（黒人）系の順となっている。



	1853	1878	1900	1930	1960	1990
総人口	73,137	57,985	154,001	368,336	632,772	1,108,229
ハワイ人	70,036	44,088	29,799	22,636	11,294	138,742
混血ハワイ人	983	3,420	9,857	28,224	91,109	→)
白人系	1,687	3,748	26,819	80,373	202,230	369,616
アエルトリコ系	—	—	—	6,671	→)	→)
ポルトガル系	87	486	18,272	27,588	→)	→)
スペイン系	—	—	—	1,219	→)	→)
その他白人	1,600	3,262	8,547	44,895	→)	→)
中国系	364	6,045	25,767	27,179	38,197	68,804
フィリピン系	—	—	—	63,052	69,070	168,682
日系	—	—	61,111	139,631	203,455	247,486
コレア系	—	—	—	6,461	→)	24,454
黒人	—	—	233	563	4,943	27,195
その他	67	684	415	217	12,474	63,250

1) 1990年データでは、ハワイ人に統合。
 2) 1960年以降は白人系の再分類はなし。
 3) データなし。
 ハワイ諸島のエスニック別人口
 『新版世界各国史27 オセアニア史』
 山本真鳥編 [山川出版社] p.280,
 山本氏論文中より
 出典：Robert C. Schmitt, *Historical Statistics of Hawaii*, University Press of Hawaii, 1977.

図 ハワイの人口構成（1778-1980年）
 (出典) E. C. Nordyke, *The Peopling of Hawaii*, Honolulu, HI.: University of Hawaii Press, 1989.
 『季刊民族学』97 [千里文化財団] p. 22,
 清水昭俊氏論文中のグラフを参考に作成

《ハワイ人の再生へ》

ハワイ州とハワイ人は、1993年1月17日に「王権転覆」100周年記念行事を行いました。この年は奇しくも『国連先住民年』に当たる年でした。100年前つまり、(1893)年のちょうどこの日、白人のクーデターにより、ハワイの王権が転覆させられ、白人一派が「臨時政府」を打ち立てました。(リリウオカラニ)女王には降位勅告が出されました。「主権」回復を求めるハワイ人たちが、イオラニ宮殿の庭で集会を開き、その後ホノルル市内をデモ行進しました。ハワイ人は今回ほど大規模ではありませんが、毎年、1月17日前後の日曜日に、「主権の日曜日」という名の集会を開いています。

多文化共生、多民族共存の優等生と見なされるハワイですが、その裏側には「支配と抑圧」の歴史があり、現在も「軋轢(あつれき)」が続いているのです。それは、ハワイ人に限ったことではありません。ハワイの日系人も歴史的に抑圧を受けてきました。

日系人は、中国系の人々とともに、(移民)の歴史で人種的な排斥を受けてきました。(サトウキビ・プランテーション)の労働者からたたき上げた歴史は、苦勞の連続でした。さらに、第二次世界大戦で、日系人は社会生活を制限され、「アメリカ本土」の日系人と同じように強制収容所に送られた人も少なくありません。また、アメリカへの忠誠を表すため、米軍兵士となり志願してヨーロッパの最前線に赴き、戦死した日系人も少なくありませんでした。

今回の授業では、日系人の歴史にはあまり触れず、ハワイ人の歴史に焦点を絞ることにします。

もう一度、左の人口構成のグラフを見て下さい。18世紀の末まで、ハワイにはハワイ人だけが住んでいました。その後、サトウキビ・プランテーション事業に目をつけ入植する欧米人が増えました。最初は布教のため来島した宣教師が、事業家に変身した事例も多く見られます。他方、ハワイ人は一貫して人口を減らしています。なぜでしょうか。内戦に、欧米人が持ち込んだ大砲や銃などの火器が使われるようになったこと、欧米人から伝染した性病や結核、インフルエンザなどの病気、アルコール中毒、急激な社会変化などがその原因といわれています。18世紀後半の1778年に英人(「キャプテン・クック」)が来島した当時、20万~25万ほどであった人口が、50年後には半減し、1853年には7万人にまで減ってしまいました。

19世紀後半、砂糖産業の労働力として中国人、日本人の「移民」が始まると、またたく間にこれに追い越されてしまいます。19世紀末にハワイ人の人口は最小となり、その後は増加に転じますが、それはおもに混血によるものでした。

現在のハワイの多民族状況は、図式的に表現すれば、人口を減らしたハワイ人と、移民で増加してきた諸集団とが、入れ替わった歴史の結果だとも言えます。

人口の推移は、経済と政治の推移の反映でもあります。ハワイ人が受けた苦難の歴史をざっとたどってみることにします。人口で逆転されるより前に、ハワイ人は経済を欧米人資本家が導入した砂糖産業に明け渡しました。ハワイ人は近代的な立憲君主制を形成していましたが、植民地経済を支配した欧米人は、19世紀末に政治でもハワイを乗っ取り、アメリカ合衆国領にしてしまいました。サトウキビ農園の経営主となった白人たちは、自らの経済的發展を維持するために政治的権力を欲し、地位や権力を不動のものとするため、アメリカとの併合を追求するようになっていったのです。また彼らは、安価な労働力を大量に必要とし、アジアから従順でよく働く労働者を呼び入れたのです。

☆このあたりの歴史(1835年~1900年)を年表形式であらわしてみます。

(注；1830年頃までのハワイの歴史については、参考としてプリントの末尾に掲載します。)

- ◆1835年 砂糖キビ・プランテーションが初めて設置される(白人による資本主義経済、私有制の概念の導入)。
- ◆1840年 (カメハメハ3世)、初めてのハワイ憲法公布。立憲君主制成立。
- ◆1844年 ハワイ帰化を条件に、欧米系白人の政府要職就任が認められる。
- ◆1845年 ハワイ議会招集。行政府、最高裁・裁判制度が設けられ、王権が縮小、族長・庶民の権利が拡大。
- ◆1848年 ハワイ先住民の土地私有が認められる。
- ◆1850年 外国人の土地私有が認められる。ハワイ在住の白人が土地を買い占め、大規模なサトウキビ農場や牧場を始めるようになる。(1862年までには75%の土地が白人所有に)
- ◆1852年 二院制、全男性市民に選挙権、奴隷制禁止などを盛り込む新憲法がハワイ議会で採択。米国議会で、ハワイ併合案が初めて提唱される。サトウキビ畑の労働者として、中国より契約労働移民が来島。
- (日) 1853年 ベリイが浦賀に来航
- ◆1861年 アメリカ合衆国で南北戦争勃発。北部で南部産の砂糖に代わり、ハワイ産砂糖の需要が高まる。

- ◆ 1868年 日本、維新政府の発足。日本から最初の契約労働移民（「元年者」）が来島。
 - ◆ 1874年 （カラカウア）王が即位。王権強化をはかり、華麗な宮廷制度を敷く。
「ハワイ人のためのハワイ」を年頭におき、ポリネシア世界の連帯による「太平洋諸島
連合構想」を抱く。*王の努力により、フラが復興する。
 - ◆ 1875年 砂糖キビ農園の労働力としてポルトガルから契約労働者家族到着。
 - ◆ 1876年 米布（合衆国→ハワイ）互恵条約締結（農産物を非関税で合衆国へ輸出することが可能
になった一方で、合衆国への経済的依存体質をますます強める）
 - ◆ 1881年 カラカウア王、9ヶ月間にわたる世界周遊の旅に出る。
サンフランシスコを経由し太平洋航路で日本へ。西欧に征服されず、君主制を維持する
新興国家日本に、ハワイ王国との間に政治的な協力関係（東洋同盟）を求める。王には、
日本と同盟を結んで白人勢力を牽制し、そのバランスのうえに、ハワイ王国を維持しよ
うとの思惑があった。明治天皇、井上馨外務卿らと会見し、日本人移民の要請と、両国
王族間の縁組を申し入れる。日本政府は、前者については承諾するが、後者の申し入れ
に対しては天皇の親書により丁重に断る。
- ◎日本政府が「提案」を断った背景：欧米との不平等条約を改正し、西欧諸国に対峙しう
る近代国家の建設が当面の課題との認識から。
- 世界周遊から帰国した王は、西洋文明の粋を集めたイオラニ宮殿に、近代国家ハワイの
国威発揚のため、西欧の最高の家具・調度品を置く。同時に、西欧文明に対抗するため、
ハワイの文化遺産回復に努める。イオラニ宮殿で催した戴冠式には、要人を招き、宣教
師に禁止され、長い間日の目を見なかった「フラ」ダンスを披露。他方、世界周遊、宮
殿建設、華やかな社交生活が財政の破綻を来す。
- *王の日本や英国への接近に不安を募らせた白人資本家たちは、王権の弱体化を狙った。
 - ◆ 1882年 中国人排斥法がアメリカ議会を通過。ハワイでも反中国人感情が高まる。
 - ◆ 1885年 ハワイ政府、労働契約移民制度を実施。日布（日本→ハワイ）移民条約締結をうけ、且
本政府斡旋による「官約移民」開始（約900名の移民がシティ・オブ・トウキョウ号
でハワイに上陸。カラカウア王、日本人移民キャンプを慰問。日本人移民、相撲大会
を開く。気に入った王は、宮殿でしばしば相撲を楽しむ）
 - ◆ 1887年 米国系白人住民の不満が高まり、秘密結社「ハワイアン・リーグ」を結成。ハワイ人の
ナショナリズムの台頭を憂慮し、新憲法制定による王権縮小を目指す運動を開始。
王は、白人武装集団による威嚇下で強制的に「1887年憲法」つまり「ベイオネット
（銃剣憲法）」に調印させられる（要旨：王権とハワイ人系の弱体化、米国系白人の政
治的権力強化、東洋人系の参政権を事実上剥奪）。
 - ◆ 1888年 米系白人勢力へのハワイ人の抵抗として「ファイ・カラライアイナ」（ハワイ人政治協会）
組織化、これを中心とする「国家改革党」結成。
 - ◆ 1889年 ビショップ・ミュージアム開館
 - ◆ 1891年 カラカウア王、病氣療養のためサンフランシスコへ。旅先で多くのナゾが残る死（毒
殺説も）。9日後に、妹のリリウオカラニ女王即位。
→ 女王は、兄が強制的に調印させられた憲法を廃止し、王権強化を図る新憲法を
布告しようとした。この試みが、ハワイ王朝転覆の直接の原因となった。ロリン・サー
ストーン（ハワイに最初に上陸した宣教師の末裔で、新聞社を経営）を中心とする白人勢
力がこれを口実に、クーデターを起こす。
 - ◆ 1893年 白人住民のクーデターにより、リリウオカラニ女王、宮殿の一角に幽閉される。アメリ
カ人の生命・財産の保護を名目に、米国公使ステイアーズの要請を受け、ホノルル港
に停泊していた軍艦ポストン号の米国海兵隊が上陸。
1月17日、上陸した米軍の見守る中、白人勢力は王朝勢力の建物を占拠。王朝廃止、
暫定政権の樹立を宣言。女王に廃位の勧告。
- ◎リリウオカラニ『私は、ハワイ王国に対する反逆行為に厳重に抗議し、軍隊の衝突と流血をさ
けるため、米政府が自らの行動を取り消し、ハワイの立憲君主として私を復位させる時
がくるまで、私はひとまず女王としての権力を放棄致します。』
- ・米国23代大統領ハリソン、ハワイ併合条約を上院議会で提出。議会の賛成を得られず。
- *王朝転覆の2ヶ月後、（1893年3月）米24代大統領に就任したクリブランドは、前ハ
リソン政権時代に先送りとなった、実業界の利益を追求するために仕組まれたハワイ併合問題
を認めなかった。ハワイに特使を派遣し、事実の究明調査に乗り出し、「王朝の転覆は米に責
任あり」と結論を出し議会で演説。大統領メッセージを公にする。『ハワイは誰もが同意も希

望もしなかったのに、米の軍力により所有物となった。米のホノルル占領は正当化できるものではない。』クリーヴランドは、ハワイの王政復古を暫定政権と呼びかけるが拒否される。

- ◆1894年 暫定政府、「ハワイ共和国」誕生を宣言。新共和国憲法を公布。ドール、ハワイ共和国大統領に就任。
日本の官約移民廃止、以後私的移民（民間会社の斡旋）の時代が続く。（～1900年）
（日）1894年 日清戦争（～95年）
- ◆1895年 ハワイ人王朝派の武装蜂起、反撃をはかりホノルルへ侵攻するが2週間後に鎮圧される。
リリウオカラニは、反逆罪で逮捕され、5年の懲役刑をうける。ワシントンブレイスの自宅に監禁。王位を廃棄し、一般市民として余生を送る誓約書に署名させられる。
『アロハオエ』は、リリウオカラニが幽閉時に作曲）
- ◆1896年 ホノルルに日本人小学校創立。
- ◆1897年 日本政府、アメリカのハワイ併合案に反対する意思を表明。「神州丸」で渡航の日本の自由移民、上陸拒否を受ける。
共和党マッキンリーが、米25代大統領に就任。ハワイ併合問題が活発に議論される。
軍事戦略家、アルフレッド・マハンの制海権思想が、19世紀末の米の膨張政策に大きな影響力を持つ。「海洋を制する国家が世界の富を制し、歴史を制す」。セオドア・ローズベルト（次期大統領となる）がマハンの軍事戦略を分かち合う。
マッキンリー、政権成立2ヶ月後に、マハンに極秘の手紙を送る。「自分に命令できるのであれば明日にでもハワイを併合したい。日本の脅威が高まっているので、併合は緊急の課題。」「カリブ海からスペインを追い出す。」
→マハンの戦略理論に支えられ、米は伝統的孤立主義（モンロー主義）から逸脱し、帝国主義国家の道を歩み出す。
- ◆1898年 （米西戦争）勃発。米、スペインに勝利。カリブ海（キューバ、プエルトリコ）と西太平洋（フィリピン）を獲得。海洋帝国への道を決定的なものとする。真珠湾のあるハワイの戦略的重要性が新たに認識され、また放っておけば日本に占領させるかも知れないという危機感も手伝い、ハワイ併合法議案が米閣上院、下院を通過。マッキンリー大統領の調印により、ハワイ併合達成。イオラニ宮殿に星条旗が掲げられる。
- ◆1900年 ハワイ領土政府設立。旧ハワイ共和国大統領ドール、初代ハワイ領土知事となる。

アメリカ合衆国からみれば、ハワイ人は「未開」な民であり、アメリカ文化に同化させる必要があったのです。かくしてハワイ人は、ハワイ語を捨て英語を話すことを強いられ、白人とアジア系移民が形成した都市生活に適応していかなばなりません。経済や福祉、教育、犯罪などの統計は、ハワイのおもな民族集団のなかで、ハワイ人が相対的に低い位置にあることを示しています。

ハワイ人はこの歴史をただ受動的に生きてきたわけではありません。抵抗しながらも、長らく後退と譲歩を余儀なくされてきました。そして1960年代末から、政治運動と文化運動を拡大してきました。これは、1960年代に合衆国で黒人による（公民権運動）が盛んになり、さらには大陸先住民（ネイティブ・アメリカン）の運動が起き、それに触発されるかたちで、ハワイ人の文化復興と権利回復運動が盛んになったのです。ハワイ人による文化復興運動は、（ハワイアン・ルネッサンス）と呼ばれています。

ハワイ人が求める「主権」には、アメリカ合衆国からみれば反論があるでしょう。ハワイ人は市民としてアメリカ合衆国の主権に参加しており、彼らは市民権の上でどのような差別も受けていない、と。

しかし、ハワイ人の反論はこうです。

『ハワイはもともと独立した近代国家だった。アメリカ合衆国はハワイ人の意思に反して、ハワイを領有した。それ以来、ハワイ人は、ハワイとハワイ人の政治的地位を自ら選択する機会を、一度も与えられていない。1959年にハワイが50番目の州に昇格したときも、そうだった。ハワイがアメリカの一州であり、ハワイ人がアメリカ市民であるという現在の地位は、強制されたものであって、ハワイ人みずから選んだものではない。』

それでは、ハワイ人はどのような形で「主権」を求めているのでしょうか。これは、運動家のなかにもさまざまな意見があり、大きくは「独立派」と「自治派」に分けられます。前者はモデルをハワイ王国に求めるのか、民主制国家の形態をとるのかなど意見は多様です。後者は、「国内国家」の制度と結びつきます。先住民は、一定の条件を満たせば、民族ごとあるいは地域集団ごとに政府を作り、合衆国政府と条約を結んで「国内国家」の認定をうけ、合衆国憲法の枠内で自治を行います。

1993年、アメリカの連邦政府は過去の誤りを認め、謝罪をするにいたりました。この年、ネイティブ・ハワイアンに対する「謝罪決議」が連邦議会を通過し、クリントン大統領はハワイ王朝の転覆にアメリカ政府が関与していたこと、その後の併合がネイティブ・ハワイアンの意志を十分に確認しないまま強行されたことを公式に認め、今後、かれらの文化的アイデンティティの保持を従来以上に促進すべきだと述べました。金銭的補償や、アメリカに住むネイティブ・アメリカンに認められているような、アメリカ国内である程度の自治を有する「国家」を持つ権利までは認められなかったものの、連邦政府がネイティブ・ハワイアンの歴史と文化の重要性とともに、アメリカ政府の過去の過ちを公に認めたことは、かれらにとって重要な勝利でした。

《活性化するハワイ文化 — ハワイ人再生の潮流》

「主権」という場合、政治的主権に加えて、自立的経済、言語、慣習、文化なども回復すべき「主権」に含まれます。ハワイ人主権運動の主張は、歴史に向かいがちですが、現実起こっている問題がハワイ人の文化、アイデンティティに関わってくることはよくあります。

毎年のように、ハワイ人の入会権を制限する法案が州議会に提出されます。19世紀半ばに土地私有制が導入されたあとでも、天然の植物を採取する慣習的な入会権は保護されてきました。外資による観光開発を期待するデベロッパーを中心に、産業界ではこの入会権の制限を望む声が強いです。この法案に反対してハワイ人の先頭に立ったのは、フラ学校の教師たちでした。正統的なフラでは祭壇や衣装に天然の植物を使います。入会権の制限は、フラが保ってきた自然とのつながりを破壊するのです。

1960年代末にはじまった「ハワイ(人)の再生」の潮流は、ハワイ人の民族文化とアイデンティティに対する自覚を呼び覚まし、広い範囲の文化活動に導きました。活性化したハワイ文化は、音楽(フラ、チャント)、芸術工芸、スポーツ(武術、カヌーなど)、健康と医療(ロミロミとよばれるマッサージなど)、伝統的カヌーと航海術による外洋航海、ハワイ語による学校教育など多岐にわたっています。

現代の地球環境への関心の高まりから、ハワイ人の伝統的な生活と価値観が見直されています。ハワイ人には、自然との調和、社会の調和を優先し、ハワイの自然に適した技術で自足的な生業を実現していました。(アプアア)とよばれる山から海までの扇状地を単位とする土地が住民の生活共同体を構成していたのです。その中心的なシンボルは、主食だったカロつまり(タロイモ)です。プランテーションで荒れた環境の回復と教育プログラムをかねて、水田でのカロ栽培を推進しているグループもあります。カロは、伝統的な食べ方であるポイ(ペースト)のほか、オリジナルなパンや菓子にも作られています。

復元建造され、外洋航海を重ねたハワイ式カヌー「ホクレア」号は、いまやハワイ人の範囲を超えて、ポリネシア人を結ぶ象徴となっており、ハワイの教育プログラムに組み込まれています。

(参考)

【1830年頃までのハワイ史年表】

- ・ 300～700年頃 南太平洋(マルケサス諸島)からハワイへ人の移動がはじまる。
- ・ 1100～1300年頃 ハワイとタヒチの交流がさかになる。
- ・ 1300年頃 ハワイと南太平洋の島々の交流が断たれる。ハワイで独自の社会と文化が形成される。
- ・ 1778年 英人ジェームズ・クックがハワイへ来航。翌年ハワイ島で殺害される。
- ・ 1790年 ハワイ島のキラウエア火山が爆発し、カメハメハの敵が全滅する。この後、カメハメハはハワイ島での覇権を確立。白檀(香水の一種)などの天然資源を欧米人に売り、武器、鉄、衣服などの物品を積極的に輸入する。
- ・ 1810年 カメハメハがハワイ諸島を統一。統一ハワイ王朝が確立され、カメハメハが初代の王となる。
- ・ 1819年 カメハメハ1世が死去。息子のリホリホがカメハメハ2世として王位に就くが、実権は1世の妻のひとりカアフマヌが掌握する。カブ(タブー)が廃止され、島内のヘイアウ(神殿)が破壊される。*アメリカから最初の捕鯨船が入港。
- ・ 1820年 ポストンよりキリスト教宣教師が渡来。
- ・ 1824年 カメハメハ2世が訪問先のロンドンで死去。
- ・ 1825年 カウイケアオウリがカメハメハ3世として即位。*カアフマヌがキリスト教に改宗。
- ・ 1828年 ハワイ島コナでコーヒー栽培が始まる。
- ・ 1830年 ハワイの山から白檀がほとんどなくなる。ホノルルやライハナが捕鯨船の基地として栄えるようになる。

(解説)

《ハワイの人気バンドHAPAの歌った「プライド」》

(CD『イン・ザ・ネーム・オブ・ラブ』に収録)

ハバは、ネイティブ・ハワイアンと中国系の混血でハワイ出身のケリー・カネアリイと、アイルランド系アメリカ人でニュージャージー州出身のバリー・フラネガンによるデュオである。ハバとはハワイ語で「半分」という意味で、一般的には白人との混血の人を指す。このバンドは地元のハワイ出身の「ローカル」のカネアリイと、本土出身の白人のフラネガンが一緒だから「ハバ」というわけだ。

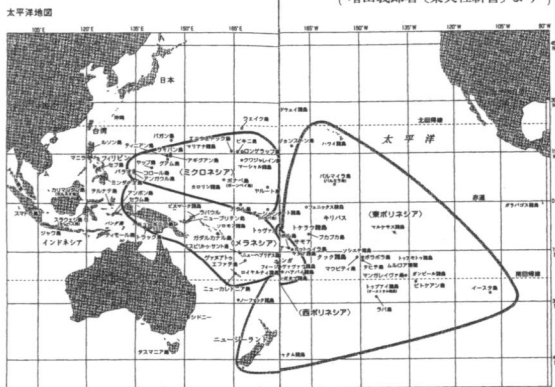
1993年1月17日の日曜日、ハワイ王朝が転覆されて100周年にあたるその日、ホノルルのアロハ・スタジアムで全米大学選抜フットボールのオールスターゲームが行われ、この試合のハーフタイムに、ハバが登場した。ハバは、満員の聴衆の前に、アイルランドのバンドU2の「プライド・イン・ザ・ネーム・オブ・ラブ」という曲をカバーして歌った。「プライド」はもともと、U2のヴォーカルであるスティーヴ・ボノが、ホノルルに滞在していたときに、アメリカの公民権運動の指導者だったマーチン・ルーサー・キング牧師に捧げるために作った歌だ。

ハバが歌った王朝転覆100周年の日は、ちょうどキング牧師の業績を讃える記念日の前日でもあった。だから、この日のハバによる「プライド」には二重の意味があったわけである。ホノルルで作られたキング牧師を追悼する歌を演奏することは、キング牧師の功績を讃えるだけでなく、1世紀前の白人集団によるハワイ王朝転覆事件に対して抗議の意を表明することでもあった。ネイティブ・ハワイアンの意向を無視したハワイ王朝の転覆事件こそ、キング牧師が戦い続けた差別と不正義を象徴する事件だったからである。

長いあいだ、ネイティブ・ハワイアンの人びとは、代々自らの祖先が住んできた土地で、差別と貧困に直面し、さまざまな苦勞を強いられてきた。そのような差別と戦うための勇気と希望をキングは黒人だけではなく、ネイティブ・ハワイアンにも与えたのだった。60年代後半から70年代にかけて、ネイティブ・ハワイアンの歴史や文化への再評価が進むとともに、土地や国家の回復運動もはじまっていたのである。キングがアメリカ南部で展開した1960年代の公民権運動は、数千キロメートルも離れたハワイでネイティブ・ハワイアンの権利回復運動へとつながったのだった。

ハバの演奏はキングを追悼するとともに、差別や不正義と戦おうとするキングの精神を忘れず、ネイティブ・ハワイアンのプライドや権利をさらに回復していこうとする意識を歌いあげようとしたものだった。(矢口祐人著『ハワイの歴史と文化』より抜粋)

〔太平洋一開かれた海の歴史〕
増田義郎著(集英社新書)より



カメハメハ1世

〔新版世界各國史27 オセアニア史〕
山本真島編(山川出版社)より



〔地球の歩き方 ハワイ I オアフ島他(04・05版)〕
ダイヤモンド・ブック社より

カラカウア王(1826~1891年)は選挙で選ばれた王様。彼が王位に即していた時代は、すでにハワイ王国は半崩壊状態に陥っていたが、選出された彼の能力で停止されていた崩壊を復活させたり、カメハメハ大王の崩壊を継ぐなど、民族の誇りを取り戻すよう努力した。いわば第一回「ハワイアン・ルネッサンス」を起こした人物。(Photo Bishop Museum)

〔地球の歩き方 ハワイ I オアフ島他〕(04~05版) [ダイヤモンド・ブック社]より

カアファヌ王妃(1768~1832年)。16歳でカメハメハ大王の愛妾となり、カメハメハ2世・3世の治世に摂政として権勢をふるった。カアの晩年、ヘイアの遺孀、キリスト教の宣教師など、ハワイ文化に及ぼした彼女の影響は計り知れない。(Photo Bishop Museum)



リリウオカラニ像

<リリウオカラニ女王の左手>
女王が作曲した「アロハオエ」（あなたに愛を）の楽譜と、創世神話「クムリボ」、1893年憲法のテキストを持っている。



【季刊民族学】97（千里文化財団）
p.37, 清水昭俊氏論文中より



【地球の歩き方 ハワイ
I オアフ島他】(04~
05版) [ダイヤモンド・
ブック社] より

カラカワア王の姪にあたるカイウラニ女王。1893年、祖母のリリウオカラニ女王が逮捕せられると、アメリカに渡りクリブラント大統領に会い、白人たちのクーデターの罪を訴えた。が、彼女の勇気も虚しくハワイはアメリカの領州にされてしまう

* 「U. S PIRACY」は
「合衆国は略奪者」の意

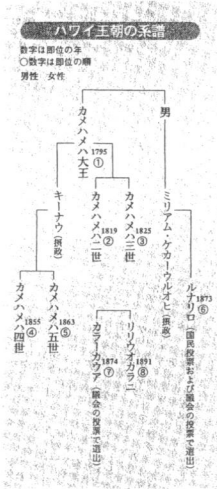
- ①Tシャツの柄のモデルになっている女性は誰？
()
②Tシャツの伝えるメッセージを解説しなさい。
()



カメハメハ3世



【ハワイ・さまよえる楽園】中嶋弓子著（東京書籍）表紙より



【季刊民族学】97（千里文化財団）
p.33, 清水昭俊氏論文中より

【世界史リブレット64
ヨーロッパから見た太平洋】
山中通人著（山川出版社）
より



（一九九三年）
自治権回復を求めるハワイ人のデモ

ワークシート（作成：青柳千子）

ハワイ イメージ：ハワイに関係ある！と自分が思うものに○をつけてね。

サーフィン	海	山	峡谷	ワイキキ	カメハメハ
リリウオカラニ	キャスデンクック	カラカウア	アロハシャツ		
ウクレレ	フラダンス	あこがれのハワイ航路	アロハオエ		
小錦	武蔵丸	曙	高見山		
パイナップル	サトウキビ	ハイビスカス	サトウキビ	ココヤシ	
タロイモ	バナナ	コーヒー			
アメリカ人	ハワイアン	ドイツ人	移民	イギリス人	ポルトガル人
フィリピン人	日本人	中国人	韓国人		
真珠湾	火山	珊瑚礁			

ハワイ 豆知識：あっていると思うものに○、間違っていると思うものに×をつけてね。

伝統・習慣

- ・フラダンスは本来、ハワイ人の伝統的な踊り
- ・ウクレレはハワイの伝統的な楽器
- ・すもうはハワイの伝統的なスポーツ
- ・アロハシャツは初め、日本の着物のリサイクルだった

☆「伝統的な」というのは、ヨーロッパ人が来る前からのという意味です。

歴史

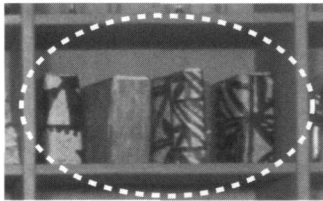
- ・ハワイに最初にやってきた日本人は観光客
- ・ハワイを統一した王様はカメハメハ1世
- ・今の国名はハワイ王国
- ・かつては独立国

現在

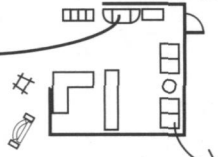
- ・人口の内でも過半数を占めるのは白人
- ・人口の内でも過半数を占めるのは日系人
- ・人口の内でも過半数を占めるのは中国系
- ・人口の内でも過半数を占めるのはハワイ人
- ・どのグループも過半数を占めるまではいかない

オセアニア展示場で答えをさがしてみよう

これは「タパ」で作ったフックカバーです。



ハレ・クーアイのお店



「タパ」は
昔は服の材料でした。

「タパ」ってなにかな？

1. 鳥の羽を編み込んだ布
2. 木の皮をたたいて作った布
3. 植物の繊維を織った布

ほかに使っていた場所はどこかな？

展示場のキャプションを見て探してね。

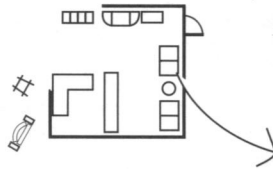


☆タパについては、「月刊みんぱく」1987年8月号(表紙説明)と1991年9月号(12ページ)に詳しい説明があります。学習コーナーで読んでね。

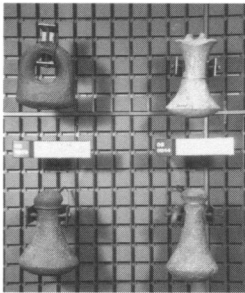
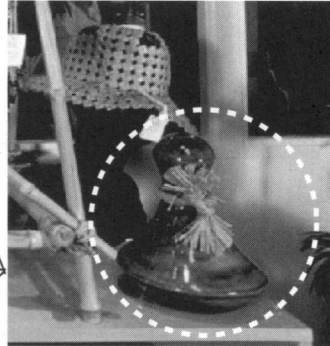
オセアニア展示場で答えをさがそう！

これは陶器製の飾り物ですが、
もともと「ポイ」というものを作る道具でした。

ハレ・クーアイのお店



道具として使っていたときのものです。



オセアニアの展示場で
こんな資料を探してね。

キャプションをよく見て、質問に答えてね。(あっているものに○をつけてね。)

これは ^{すず} 1. 鈴 ^{うす} 2. 臼 ^{きね} 3. 杵 です

もともと何でできていたのかな(材料)?

1. 木 2. 鉄 3. 石

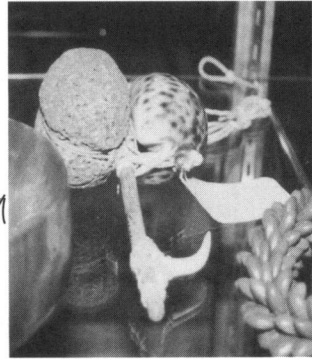
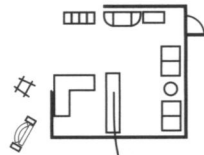
「ポイ」は、ハワイの伝統的な食べ物です。どうやって作るのかな?

1. タロイモをすりつぶす
2. バナナを油で揚げる
3. ココナツミルクをしぼる

☆今ではハワイのスーパーに、粉末ポイが売っているそうです。

オセアニア展示場で答えをさがそう！

ハレ・クーアイのお店



何に使った道具かな？

1. ネズミをとる
2. タコをとる
3. イカをとる

ほかに使っていた場所はどこかな？

展示場のキャプションを見て探してね。



☆この道具に関係あるお話が「月刊みんぱく」1981年8月号の12ページに載っています。学習コーナーで読んでね。



